KANSAI＊OSAKA

文化力

No.134

2020/AUTUMN・秋

関西から文化力 POWER OF CULTURE

特集 ポストコロナ時代を読む

西尾章治郎氏・山極壽一氏・五百旗頭真氏

トップインタビュー 企業と文化

古市 健 氏

（日本生命保険相互会社 代表取締役副会長・関西経済同友会 代表幹事）

WEBで配信する 関西・大阪文化力会議2020 ～和食フォーラム～

2020年度採択事業の紹介

日本万国博覧会記念基金

アーツサポート関西

令和元年度大阪文化祭賞、関西元気文化圏賞 受賞者発表

KANSAI SPIRITS

現代美術家 笹岡由梨子さん

公益財団法人
関西・大阪21世紀協会

表紙：笹岡由梨子さん（現代美術家）

トップインタビュー
企業と文化

「三方よし、プラス次世代

日本生命保険相互会社 代表取締役副会長
一般社団法人 関西経済同友会 代表幹事

古市 健氏に聞く

共存共栄、相互扶助の精神を受け継ぎ、創業以来数多くの社会貢献活動に取り組む日本生命保険。同社の副会長であり関西経済同友会代表幹事でもある古市氏に、コロナ禍の難局に立ち向かう関西経済界や同社のCSR活動への思いについて、当協会理事長の﨑元利樹が伺った。

教訓を風化させない

﨑元　古市さんは、コロナ緊急事態宣言さなかの今年5月12日、関西経済同友会の代表幹事に就任されました。いまだコロナ禍終息の見通しが立ちませんが、関西経済界の舵取り役として、また企業経営者のお一人として、現状と今後の活動についてどのようにお考えでしょうか。

古市　昨年12月に代表幹事の内定を受けたとき、関西経済同友会には2025年大阪・関西万博やMICE*・IR誘致、インバウンド推進といったテーマに向けて「やるぞ！」という雰囲気がみなぎっていました。私も、その勢いを一層盛り上げていこうと思っていましたが、コロナ禍で世の中のムードが一変しました。

とはいえ、企業経営者の方々に伺うと、「非常に苦しい状況だが、むしろこれをチャンスに変えていきたい」とおっしゃる方が多くおられます。もちろん外食産業や観光分野の企業は大打撃を受けておられるし、業態によって経営環境の厳しさも異なります。それでも「前を向いてやっていこう」という力強いレジリエンス（回復力、逆境を跳ね返す力）を感じました。

コロナ禍で関西活性化の機運に水が差されましたが、企業経営者の心の炎は決して消えてはいません。私どもの役割は、こうした方々の熱い思いを、より一層輝かせるためのお手伝いをすることです。コロナの渦中だからといって各委員会の活動を休止したり書面で済ませたりせず、オンライン会議などを活用して実のある議論を進め、さまざまな分野の人々の気づきにつながる貢献をしていくことが大事です。

さまざまな企業の方々で構成される関西経済同友会では、比較的早くからオンライン環境を整備してきました。23の委員会は、オンラインツールを使って活動を停滞させることなく諸課題に取り組んでいます。その中で私は、ポストコロナの時代に向けて、政治や社会、企業、個人などが、それぞれどのように変わっていくべきかを議論し、メッセージを発信していくことが重要だと考えています。キーワードは「Build back better**」。コロナ禍以前の状況に戻そうという考えではなく、コロナに負けない社会づくりに向けて、これまでの行動や規制などをどのように変えていくのかを議論・提言していかなければならないと思っています。

*MICE（マイス）… Meeting（会議）、Incentive travel（報奨・研修旅行）、Convention（国際会議）、Exhibition ／ Event（展示会・見本市・催事）の頭文字。多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントの総称。
**Build back better（より良い復興）：災害発生後の復興段階において、次の災害発生に備え、より強靭な地域づくりを行うという考え方。

古市（ふるいち） 健（たけし）氏

プロフィール
1954年東京都出身。東京大学経済学部卒業後、1977年日本生命保険相互会社入社。同社専務執行役員、副社長を経て2016年より現職。2020年5月に関西経済同友会代表幹事に就任。

よし」でSDGs達成と心豊かな将来に向け貢献

＊三方よし…「売り手よし、買い手よし、世間（社会貢献）よし」とする近江商人の信条

﨑元　関西経済同友会のテレワークへの切り替えは早かったですね。今後、否応なくこうしたITシステムが普及していくと、人々の働き方に対する考えも変わるように思います。

古市　そうした働き方の変革の機運もそうですが、今多くの人が感じている、例えば、コロナ禍の最前線に身を置くエッセンシャルワーカーに敬意を払ったりする思いや行動が、コロナ終息後に全てリセットされて消えてしまうことをむしろ危惧します。将来、また何らかのクライシスに襲われたとき、この度のコロナ禍で得た教訓が生かされるよう、しっかり準備しておかなければなりません。そのためにも変わらなければならないところは着実に変え、不可逆な状態にしていくことも必要でしょう。

最高の場と機会

﨑元　2025年大阪・関西万博やMICE・IR誘致については、どのようにお考えでしょうか。

古市　2025年までには新型コロナウイルス感染症に対するワクチンや治療薬も開発されるでしょうから、今と同じ状況が今後も続くとは考えられません。万博を開催するという前提で、着実に準備を進めていくべきだと思います。『いのち輝く未来社会のデザイン』という万博のテーマにも、コロナ禍を乗り越えて迎える2025年大阪・関西万博の意義が改めて示されているといえます。基本コンセプトの『未来社会の実験場』もまさに言い得て妙で、ポストコロナの日本や世界がどう変わっていけばいいのか、さまざまな実証実験が行える最高の場が作られるのです。それに向けて、私ども財界や個人企業などは遠慮せずどんどんアイデアを出し、この機会を十二分に活用するための準備をしていこうと思います。

MICE・IRについては、コロナ禍の有無に関係なく必要だと思います。国内外からのビジターを日本各地に振り向け、地方経済の活性化や観光産業の振興へとつなげるMICE・IR構想は日本の生きるべき道の一つでもあり、万博と絡めて引き続き議論していくべきでしょう。「会議ならオンラインで可能」「3密で集まる意味があるのか」という意見も当然ありますから、そうした問題をクリアしつつ、それでも来てもらうことに意味があると証明することが必要です。

保険会社ならではの社会貢献活動

﨑元　御社が取り組まれている、さまざまな社会貢献活動についてご紹介いただけますでしょうか。

古市　まず、ビジネスの一環として取り組んでいるもの、とりわけ近年特に注力しているのが、SDGsの達成を後押しするESG投融資*です。当社には約70兆円の資産があり、SDGsに掲げるさまざまな課題の達成に向け、機関投資家として資金面で支援することにより持続可能な社会の実現に貢献しようというものです。

そして、ビジネスそのものではありませんが、長年にわたり、日本生命グループとして設立した5つの公益財団法人を中心に、本業と関わりの深い医療・高齢分野をはじめ、児童・青少年の健全育成、文化、環境など、さまざまな分野で社会貢献活動を行ってきています。私たちの生命保険事業の収益を社会に還元するもので、最も古いものは日本生命病院を運営する「日本生命済生会」で、1924年に設立されました。また、ニッセイエデンの園(総合シルバーサービス施設)の運営や介護福祉士などの育成を助成する「ニッセイ聖隷健康福祉財団」、子どもたちの健全育成に向け活動する団体への物品助成や博物館展示案内の出版などを助成する「日本生命財団」、森林資源や環境の保全活動を推進する「ニッセイ緑の財団」があります。

公益財団法人 関西・大阪21世紀協会 理事長
聞き手 崎元（さきもと） 利樹（としき）

文化分野では、「ニッセイ文化振興財団」が運営する日生劇場があります。創業70周年記念事業として1963年に建てられたもので、世界的建築家・村野藤吾氏(1891～1984)の設計による贅を尽くした格調高い建物です。当時社長であった弘世現(1904～1996)は「いいものを見た時の感激は、その人の一生を支配する」という言葉を残しています。その言葉の通り、開場翌年から、子どもたちの豊かな情操を育むことを願って、小学6年生をミュージカルに無料招待する「ニッセイ名作劇場」を長年にわたり続けてきました。2014年からは

日生劇場
（東京都千代田区）

「ニッセイ名作シリーズ」として発展させ、オペラやクラシックコンサート、人形劇などに招待しています。有料公演では、国内外で活躍している実力派のオペラ歌手やスタッフによる「NISSAY OPERA」や、家族向けの「日生劇場ファミリーフェスティヴァル」も好評です。また、ともすれば注目されることもなく、評価を得難い大道具や衣裳などの舞台芸術を支える優れた技術者を表彰する「ニッセイ・バックステージ賞」を1995年に設けました。賞金100万円に加え、生命保険会社らしく年金を年額50万円終身にわたって提供するもので、2019年までに58名の方々が受賞されました。日生劇場が行うこうした活動は、当社の文化・芸術振興活動のシンボルとなっています。

＊ESG投融資…Environment（環境）、Social（社会）、Governance（企業統治）に配慮している企業を重視・選別して行う投融資。

未来への布石

﨑元　これほど多岐にわたる社会貢献活動をされているとは驚きました。特に「ニッセイ・バックステージ賞」は、舞台関係者の大きな励みになりますね。文化・芸術振興に対する御社ならではの篤い志を感じます。

古市　生命保険会社は、「終身」をキーワードの一つとしており、お客様とは一生のおつきあいになります。そうしたビジネスを続けていくには、今だけ良ければいいという考えではなく、次世代に向けた投資や配慮をしていかなくてはなりません。その意味で、子どもの心を育む文化は非常に重要ですし、SDGs達成に向けた取り組みにもそうした思いが根本にあります。当社の創業家である弘世家は、「三方よし」を信条とした近江商人発祥の滋賀県の出身です。私は、これに「次世代よし」をプラスして抱負とし、当社においても、関西経済同友会においても、長期的視点に立ち、よりよい未来に向けて微力ながら何らかの布石を打っていきたいと考えています。

﨑元　本日はありがとうございました。

※インタビューはマスクを着用して行われました。

日本生命保険相互会社
本　店:大阪府大阪市中央区今橋3丁目5番12号
1889年創立、従業員数74,557名、支社等108、営業部1,526、海外事務所4、代理店18,266、総資産80兆811億円（連結）、69兆711億円（単体）、自己資本6兆6,889億円（単体）（2020年3月末現在）

就任のごあいさつ

公益財団法人 関西・大阪21世紀協会 理事長　**﨑元利樹**

2020年6月末に堀井良殷前理事長のあとを受けて関西・大阪21世紀協会の理事長に就任いたしました。7年前にNHK大阪放送局長を退任した後、東京にある公益財団法人 放送文化基金で専務理事をしておりましたが、2019年夏に職務を終えて自宅のある神戸に戻った際、縁あって当協会の理事に選任されました。この度は理事長という大役を仰せつかり身の引き締まる思いです。

関西・大阪の「文化立都」を目指して微力ながら取り組みたいと思っています。新型コロナの苦境の中、豊かな社会の実現には心を潤す多様な文化が不可欠です。新たな形での文化力向上への取り組みを模索しつつ、協会の使命を果たしてまいる所存です。ご支援・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

1954年広島県出身。早稲田大学法学部卒業後、1978年日本放送協会入局。報道局総務部長、人事総務局人事部長、大阪放送局長などを経て2013年退職。(公財)放送文化基金専務理事、(公財)関西・大阪21世紀協会理事を経て2020年6月より現職。

大阪大学総長
西尾 章治郎 氏
（にしお しょうじろう）

特集

ポストコロナ時代を読む

知の発信拠点 関西三大学のトップに聞く

新型コロナウイルスは、私たちの日常を大きく変えた。テレワークやオンラインでの会議や教育が常態化し、劇場や美術館が扉を閉ざした。医療機関の負担はいうまでもなく、さまざまな産業への打撃は計り知れない。ネット上のデマや人権侵害は止まず、パンデミックの背景にあるグローバリズムが悪者扱いされ、極端なナショナリズムによる民主主義の変質も危惧されている。コロナ禍は、働き方や教育、倫理観、国家観など、さまざまな課題を突き付けた。これに対して、私たちは今後どのように対処すればいいのか。今年7月10日から20日にかけて、当協会理事長の﨑元利樹が、オンラインでお話を伺った。

京都大学総長
山極 壽一 氏
（やまぎわ じゅいち）

兵庫県立大学理事長
五百旗頭 真 氏
（いおきべ まこと）

西尾 章治郎 氏
（専門：データ工学）

雇用機会の創出や職場環境を変える好機と捉える

働きやすい環境づくり―― コロナ禍以前から、将来、日本では現在ある職業のうち約半数が人工知能（AI）やロボットに置き換わるだろうといわれています。多くの雇用が失われるという懸念もありますが、18～19世紀の産業革命で一部の職業がなくなっても技術革新によって新たな雇用が生まれたように、私はこの度のコロナ禍でデジタル技術への依存度が高まり、職場環境が大きく変化することを悲観的には捉えていません。むしろテレワークなど働き方が変わることで、女性や高齢者、障がい者などさまざまなバックグラウンドを持つ人の働きやすい環境づくりを加速させる好機だと捉えています。

一方、医療従事者、介護職員、保育士など、対面での対応が不可欠な職業の人たちに対しては、国、地方公共団体、企業が一体となって、職場環境の充実や処遇の改善を図る必要があります。例えば大阪大学医学部附属病院では、新型コロナウイルス感染症に対応する医療従事者に1日4千円の手当てを支給する制度を創設したり、学内3か所に保育所を設けて安心して働ける体制を整えています。また、この度のコロナ禍は、ダイバーシティ&インクルージョン*に富む、新たな雇用機会や働き方を生み出し、従来の働き方を必要とする職種に対しても、充実した職場環境を整える絶好の機会と考えています。

*ダイバーシティ&インクルージョン…性別や障がい、国籍、年齢等の外面の属性、ライフスタイルや価値観等の内面の属性にかかわらず個人を尊重し、良いところを活かす考え方。

大学が持つ知財や研究開発力への期待に応える

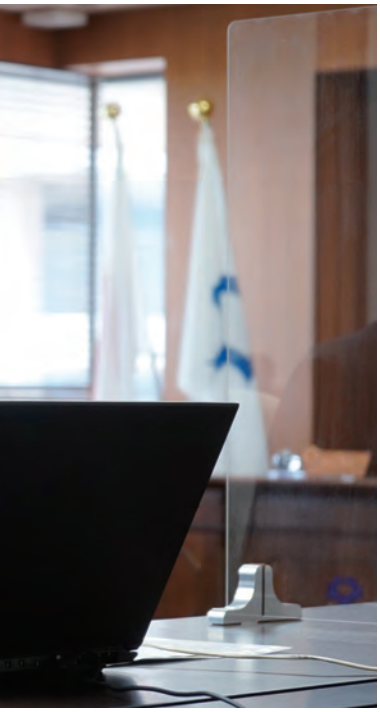
教育のIT化と大学の役割―― 大阪大学では4月の新学期からオンライン授業に入りました。その後、実習、実験などは対面で行い、現在、オンラインとオフラインを混合しています。この中で、IT環境が不十分な学生に対しては、大学からWi-Fiルーターの無料貸し出しを行うなど、教育格差が生じないよう努めています。

小中高校におけるオンライン授業についても、家庭でのIT環境がどの程度整備されているかは大きな問題です。地方自治体や政府が支援する仕組みがないと解決せず、教育格差につながるでしょう。オンライン化に対応した指導方法や教材については、大学が積極的に提案することも重要です。例えばマサチューセッツ工科大学（アメリカ）が、小学生でも簡単にプログラミングが学べるソフトウェア「Scratch(スクラッチ)」を無料提供しており、これは大変参考になります。

これまで疫病が流行すると、大学では附属病院や治療薬などを開発するライフサイエンス部門に期待が集まりましたが、この度はIT環境の重要性・有効性が明白になり、大学が持つ先進的な技術力や研究開発への期待の大きさを実感しました。特に今後は小中高校でのインターネット環境の整備が不可欠であり、大学における専門的な知識や環境構築技術をもって社会貢献することも重要になるでしょう。

問われる総合力―― これまで日本政府は「留学生30万人政策」や「ビジット・ジャパン・キャンペーン」、外国人労働者の受け入れ（技能実習、特定技能）などにより、海外からの人の受け入れを進めてきました。しかし、人の移動に伴う負の側面への対策が十分でなかったことは否めません。今後は新しい感染症にも迅速に対応し、克服していく必要があります。本学のキャンパスの一つである吹田キャンパスだけでも、その克服に資する世界トップレベルのライフサイエンス系の研究組織や二つの病院があり、これまでの実績に裏付けられた大阪大学の「知」を集結し、総合的な研究開発拠点を作る構想があります。

また、医学的なアプローチだけでなく、感染症が起きたとき人々はどのような行動様式をとるべきか、感染症対策と経済活動を両立するためにはどのようにすればいいかといった、人文学・社会科学的なアプローチも同時に進めていかなければなりません。その意味で、今こそ大学の総合力が問われているのであり、そうした期待に応えていかなければならないと思っています。



「協奏と共創」で世界規模の課題解決に取り組む

SDGs達成に向けて―― 海外では、コロナ禍によって外出が厳しく制限された結果、大気汚染が解消したという例があり、SDGsの達成に向けて私たち一人ひとりの行動が世界を変えられることを実感しました。これについても日本の大学の優れた研究力に対する期待が高まっていると思います。例えば、SDGsのゴール14「海の豊かさを守ろう」については、海洋のプラスチックごみ問題を解決する一助として、大阪大学大学院工学研究科が企業と連携し、海に流出しても環境にやさしい新素材の開発を行っています。

私は大阪大学の総長に就任した際、本学が目指すべき目標として、お互いに知恵を出し合って創造的な活動を展開する「協奏（Orchestration）と共創（Co-creation）」を掲げました。コロナ禍を克服するために、この目標が国家間においても非常に重要になってくると考えています。例えば、世界のGDP成長率が大幅なマイナスになると予測される中にあって、株価が一定水準を保っているのは、世界各国の政府と中央銀行が緊密に連携しているからでしょう。また、新型コロナウイルスに対するワクチンや治療薬の研究者たちには、開発に必要な膨大なデータを公開・共有して研究を推進する「オープンサイエンス」を先導する動きがあります。これらは「協奏と共創」の実践例といえます。

関西のポテンシャル―― 新型コロナウイルス感染症の世界的流行を食い止めるため、技術的・制度的に新たな仕組みを確立することは、特定の国だけではできません。自国に閉じ込もることなく、これまで進めてきたグローバリゼーションを今後もさらに強化していくことが強く求められます。特に、先進諸国はコロナ禍に関わるグローバルな連携をいかに前進させるかを模索する必要があり、日本は欧米の中間に位置し、またアジアの有力な国家の一つとして、まさに「扇の要」の役割を果たしていくことが重要だと考えます。とりわけ関西には、医療分野において有力な大学や企業が集積しています。新型コロナウイルス感染症に対するワクチンや治療薬の開発について高い潜在力があり、連携して研究開発を推進することにより大きな効果を発揮できるのです。そのさきがけとして、今年4月、大阪府、大阪市、大阪府立病院機構、大阪市民病院機構、公立大学法人大阪、大阪大学の6者が、新型コロナウイルス感染症の予防ワクチン、治療薬などの研究開発を連携して推進する協定を結びました。

また、コロナ禍によってテレワークが浸透すれば、生活環境の良い場所を選んで住み、仕事はリモートで行うという人が増えるのではないでしょうか。その意味でも、国内外からの移動が便利で、かつ自然や歴史が豊かで生活環境の良い関西には、まだまだ発展の可能性はあると思います。

アートパフォーマンスの新たな挑戦が始まった

制約を逆手に―― コロナ禍によって、文化・芸術の楽しみ方も変わってきました。フランスのルーブル美術館は、予約制・定員制となったため、以前なら大混雑の「モナ・リザ」をゆったり鑑賞できるようになったそうです。音楽や演劇も、ライブビューイングやネット配信といった鑑賞形態が広がるのではないでしょうか。

こうした動きはすでに始まっています。6月25日、サザンオールスターズが横浜アリーナで初めて無観客の有料配信ライブを開催しました。大会場なのに観客を入れられないという制約を逆手に取り、工夫された舞台装置から創造的な演出が次々と飛び出したことが報告されています。チケットは3,600円で、驚くことにチケット購入者は約18万人。主催者の発表によれば、チケット購入者が複数人で視聴することを考慮すると、総視聴者数は約50万人だったそうです。関西では、日本センチュリー交響楽団（大阪府豊中市）が有料配信ライブを行ったところ、視聴者の90%以上から「演奏に満足した」とのアンケート結果を得たそうです。楽団員がソーシャル・ディスタンスを守りつつ、苦労して見事なハーモニーを奏でた成果でした。

このように、ニューノーマル（新常態）におけるアートパフォーマンスが展開されつつあり、私はその動きに大きな可能性を実感しています。関西・大阪21世紀協会には、コロナ新時代にあって、芸術・文化の振興に関する新たなスタイルの創造にチャレンジする企画を積極的に支援していただくこと、また、従来にも増して人々にさまざまな芸術・文化に触れる機会を提供していただくことを期待しています。

西尾 章治郎 氏　1980年京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了（工学博士）。92年大阪大学工学部教授。大阪大学サイバーメディアセンター長（初代）、同大学院情報科学研究科教授、同大学理事・副学長等を経て、2015年より現職。専門はデータ工学。

京都大学総長
山極 壽一 氏
（専門：霊長類学）

「働くために集まる」という労働観を変える

オンラインでできない仕事―― コロナ禍でテレワークが増えたことにより、職場への移動コストや時間が削減され、経済的・身体的負担が軽減されるオンライン化のメリットが明らかになりました。とはいえ、オンラインでは絶対できない仕事もたくさんあります。それがはっきりしたことは、今後のためにも大きな収穫です。つまり税金の配分の仕方にも関係するからです。

これまでは、働くために人々が集まり、そこで信頼関係が醸成され、それが社会を動かす源泉になっていると考えられてきました。しかし、集まったり移動したりする必要がなくなれば、従来の労働観は通用しません。そうなれば、育児や介護といった家庭内労働や、医療、公共交通など、オンラインではできない労働をサポートすることを考えた、新たな税金配分を考えていかなければならないと思います。

コロナ禍による休業補償はその一つです。私たちは、外食したり、スポーツセンターで汗を流したり、劇場や美術館に行くなど、「余暇」だと思っていたことで、さまざまな産業が成り立っていることに気づきました。人々が動くのをやめた途端、それらの経営が成り立たなくなり、慌てて国や自治体が休業補償に乗り出しました。それなら初めから休業補償制度などのセーフティーネットをつくっておけばいいわけです。ともあれ、外食したり文化や芸術を楽しんだりすることは、心身の健康に重要かつ不可欠だとわかりました。もはや余暇と考えてはいけないわけで、こうした産業を成り立たせるのは、国や国民の責任ともいえるでしょう。

「所有」より「行為」に価値を求める

遊動民の時代―― コロナが蔓延する前、私は「これからは遊動民の時代だ」と言っていました。人々が頻繁に動き、物を持たなくなる時代です。高級な車や調度品を持たなくても、自動車が必要ならシェアし、衣服もタンスにはしまわずフリマアプリで売りに出す。こうした時代にあって、人々は「何を所有しているか」ではなく、「何をしているか」に価値を求めます。ボランティアが注目されるのはそうした時代の特徴で、どこへ行って何をしたかが意味を持つのです。

コロナ禍で人々が動かなくなってしまいましたが、それでも私は、精神面では遊動民の時代に変わりないと思っています。パソコンやスマホを使って自ら発信することで、「行動した」と見なされるからです。また、「Go Toキャンペーン」でも明らかになったように、やはり人には動きたいという欲求があります。インターネットを介してではなく、自ら現実を体験し、物事とリアルに出会わないと人間は生き生きしないのです。コロナ禍が終息すれば、人々は一斉に動きはじめるでしょう。

井の中の蛙―― ネット時代の情報の扱いについては、二つのことに注意が必要です。一つ目は、情報端末を手にして自ら発信者となった私たちは、今やエビデンス（証拠・根拠）の不明確な情報が氾濫する時代にいると自覚すること。二つ目は、共通の話題で盛り上がるコミュニティー（公共圏）が小さくなっていくことです。これまでは新聞やテレビなどの全国ネットワークが公共圏をつくっていましたが、今ではインターネットで自分の好きな情報だけを受け取り、せいぜい数人程度の仲間と共有していればいいという若者が増えてきました。そういう環境にいると、エビデンスの不確かな情報や間違った考えに引きずられていてもわかりません。インターネットの発達で世界中の人と情報交換できるにもかかわらず、個々人は閉じられたコミュニティーに埋没していく危機を感じています。

これを防ぐためには、対面コミュニケーションを効果的に使うことが重要だと思います。SNSの文字情報だけだと、誤解が生じたり悪意が増幅される恐れがありますが、対面であれば間違いは即座に修正できるし、相手の表情を見ながら言葉も選べる。だから、本当に重要なことを決める会議では、オンラインより対面が適していると思います。私は常々、人間社会を成り立たせている要素、言い換えれば自由を感じられる要素は、「移動すること、集まること、対話をすること」の三つだと思っています。コロナ禍にあって自粛生活を余儀なくされていますが、ポストコロナの時代にあっては、この三つをいかに適切に織り交ぜた社会をつくるかが重要なのです。

地域視点で考え、グローバルな行動につなげる

ローカルから考え始める―― 私はこれまで、「Think globally, act locally（地球規模で考え、足元〈地域〉から行動せよ）」という考え方を支持していました。しかし、地方の首長である知事たちが、地域の実情に即した独自の施策を打ち出してウイルスの感染拡大を鎮めようとしているのを見て、これからは「Think locally, act globally」だと気づきました。まずは地域視点で考え、地球全体の行動につなげるということです。

今回のようなパンデミックが起こると、人々は地域に籠らざるを得なくなります。それならば地域の環境や文化にあった施

策でなければ、人々の生命や暮らしを守ることはできません。例えばアラブ諸国では、女性患者を診るのは女性医師に限るという文化があるため、まずは女性医師を増やすことが優先されます。このようにポストコロナ時代にあっては、地域の文化や事情をきちんと理解し、それを世界全体で解決するための倫理観や技術、仕組みのプラットフォームをつくっていかなければならないのです。これこそは2025年大阪・関西万博が掲げるサブテーマ（多様で心身ともに健康な生き方）に合致するものだと思います。

安全・教育・学術で アジアの発展に寄与し、共栄を図る

未来の資本づくり—— 日本は戦争をしない安全な国です。教育水準も高く、アメリカやイギリスと違って、留学生に対して日本人学生より高い授業料を課すような差別をしません。さらに、ノーベル賞受賞者を多く輩出するほど学術に優れていますので、そうした学術・技術協力によって、グローバルな貢献ができます。

技術外交についてはJICA（国際協力機構）などでも行われていますが、これに教育や学術を加えて、特にアジアの国々を対象に、日本で教育を受けたさまざまな教育者を派遣して現地で日本型の教育を行ったり、大学レベルで協力関係を結び、現地の国情に合った技術開発をする。そうしてアジアの国々の発展に寄与することが大事だと思います。例えば、京都大学はアジア諸国にオンサイトラボ（現地運営型研究室）を5か所つくっています。これまでは海外から留学生や技術者を日本に呼んでいましたが、これからは日本の研究者を現地に送り込むのです。

こうしたことを国策として行えば、日本のレベルの高い教育や学術が輸出できますし、それが回り回って日本の未来の資本にもなるでしょう。アジアの国々の産業を育てることは、日本の利益にもつながるのです。特に、日本はアフリカを植民地にしたことがなく、アフリカでは非常に高い評価を得て受け入れられています。学術・教育面でのアジア・アフリカ戦略を国策として推進していくことは非常に重要だと思います。

また、日本は国土の67%が森林で、しかも急峻な山脈がそびえているため、北海道以外では牧場や大規模農業の経験があまりありません。こうした環境は東南アジアに似ています。北から南までいろんな気候帯がある日本では、未来の農業や林業、水産業を考えるとき、そうした環境や文化に合わせたさまざまな実験を行ってきました。いわば日本は課題解決先進国であり、その自覚のもとアジアやアフリカの国々と技術開発や人材育成に貢献することが大事です。

風土思想—— 日本には、自然と文化は切り離せない「風土」という思想があります。例えば、我々が「農村」をイメージするとき、田園風景だけでなく、そこにいる人々の姿や家屋の佇まい、神々の住処である山や神社などを同時に思い浮かべます。アジアやアフリカの国々も、そういう考えで自分たちの生活を築いてきた歴史があります。環境を客体とみなし、好きなようにつくり変えようとする西洋とは違い、環境と文化を一体とする日本人の視点こそ、地球環境を持続していく上で重要だと思います。

関西経済連合会の松本正義会長が、これからは関西から見て東の東京ではなく、西のアジアに目を向けるべきだという「ルック・ウェスト」を提唱されているのは、とてもいいことだと思います。そういう時代に合うのが風土思想で、ルック・ウェストによって関西がアジアの国々と共に発展していけるよう、ポストコロナの時代に向けて、今から準備しておかなければならないと思います。

山極 壽一 氏　1975年京都大学理学部卒業、1980年同大学院理学研究科博士後期課程研究指導認定退学。理学博士。公益財団法人日本モンキーセンターリサーチフェロー、京都大学霊長類研究所助手、同大学院理学研究科助教授、教授、理学部長等を経て、2014年より現職。専門は霊長類学で、ゴリラ研究の世界的権威。

兵庫県立大学理事長
五百旗頭 真 氏
（専門：日本政治外交史、日米関係論）

自国を守りつつ、新たな世界秩序に目を向ける

スペイン風邪と新型コロナウイルス感染症――

第1次世界大戦末期の1918年、いわゆるスペイン風邪の流行によって、世界中で少なくとも2,500万人、多くて5,000万人～1億人が亡くなったといわれています。アメリカ中西部で感染した人が兵士として船に乗ってヨーロッパ大陸へ渡り、それが港町から幹線道路を経由してヨーロッパ全域に広がったのです。そして約半年かけて日本にやってきました。死者の数に大きな開きがあるのは、世界大戦中の当時、死者数は敵に知られたくない国家機密だったからです。いずれにせよ、第1次世界大戦の戦死者が900万人ほどですから、スペイン風邪の猛威は凄まじいものでした。また、第2波、第3波と回を重ねるごとに猛毒化し、高齢者より20～40代の若い人が多く標的となりました。

一方、今回の新型コロナウイルスは、昨年12月に中国武漢市で発生し、今年1月9日、中国政府が公表した2か月後には世界的なパンデミックになりました。ウイルスは「一帯一路」に沿って1～2週間のうちにイラン、イタリア、スペインで感染爆発を起こし、グローバリズムの潮流に乗って、100年前のスペイン風邪とは逆に、ユーラシア大陸全土から北米へとあっという間に伝播したのです。

アメリカは、コロナ発生源が武漢であることから中国の責任を追及し、中国寄りのWHO（世界保健機関）も許せないとして脱退を表明しました。ウイルスが国や人種を選ばない以上、世界の人々が連携してワクチンや治療薬を開発し、それをみんなで共有することがパンデミックを抑える最も合理的な答えなのに、それを国家対立の政治に持ち込むとは、いかに大統領選挙前であっても困ったものです。

そんなアメリカを非難する中国は、武漢での発生を1か月間も公表しなかった隠蔽体質には一切触れず、いち早くコロナを克服して他国を援助するまでに経済回復したことばかりを喧伝しています。その一方で、香港の民主化を封じ込めようとしたり、南シナ海や尖閣への支配を強化するという品の悪さに、心ある国々は眉をひそめています。

いうまでもなく、コロナ禍は誰かの責任にして終息するわけではありません。まず目には見えないウイルスを正しく恐れることが大事です。無知と偏見に基づく強気が自国ファーストと結びつけば、その国はもとより世界を悲惨に導きます。世界のさまざまな問題をケアする国際機関があってこそ、各国も繁栄できるし、そのために協力するのが成熟した民主主義です。グローバル化によってコロナが拡散したことは否めませんが、グローバルな対処なしにパンデミックは終わりません。たとえ日本などいくつかの国がコロナを抑え込んだとしても、あちこちで流行が続けば、オリンピックはできないし、世界経済の本格回復は望めません。逆に協力を強化して、新たな世界秩序の構築や、WTO（世界貿易機関）の改革などに目を向けるべきです。

感染を助長した新自由主義――

1960年代のアメリカは、人種差別や富の格差を減らして、偉大な社会をつくろうとしました。しかし、ベトナム戦争によってそれが維持できなくなり、80年代になって幅を利かせてきたのが新自由主義です。大幅な規制緩和や減税によって経済活力を取り戻そうとしたのですが、一方、貧富の差が広がり、転落していった中産階級とりわけ白人労働者層の不満が膨張していきました。さらに、増大する移民によって仕事が奪われるのではないかという危機感も募り、そういう民衆の鬱屈した思いからトランプ大統領が選出されました。

しかし、そのトランプ大統領たるや、「アメリカはコロナに負けない」という無知や偏見に基づく根拠のない言動を繰り返すうち、アメリカは世界一の感染国になってしまったのです。また、新自由主義に取り残された生活困窮者が3密の生活環境を余儀なくされ、感染拡大の一因になったともいえます。これはブラジルやインドなどについてもいえることです。

こうして見ると、日本のように国民皆保険制度が整備され、生活困窮者に対してもそれなりにセイフティーネットがある社会の大事さが改めて認識されます。

「人間の安全保障」という観点で活動する

一人ひとりの命を守る――　今、コロナで試練にさらされているのは、人間一人ひとりの命です。だから私たちは、「人間の安全保障*」という認識に立って対応すべきだと思います。国や人種ではなく、人間一人ひとりの生存や尊厳を守るこの考えは、小渕恵三元首相が提唱し、国連の中に「人間の安全保障基金」が創設されました。その後、日本人初の国連難民高等弁務官をされた緒方貞子さんが、これを唱導して世界中を行脚しました。

「人間の安全保障」の考えは、SDGsが掲げる「誰一人取り残さない」世界の実現に通じるものです。コロナ禍によって世界中が苦境にある中、私は、「人間の安全保障」の観点を大事にしたいと思っています。

＊人間の安全保障…人間一人ひとりに着目し、生存・生活・尊厳に対する広範かつ深刻な脅威から人々を守り、それぞれの持つ豊かな可能性を実現するために、保護と能力強化を通じて持続可能な個人の自立と社会づくりを促す考え方。（外務省ホームページより）

文化・芸術を支援する重要性を知る

イタリアから届いた歌声――　コロナ禍の日常にあって、私たちの暮らしや働き方はどう変わるのか、あるいはどう変えなくてはならないのか。はっきりしているのは、3密を避け、テレワークなどのIT化を進めることです。もとより人と人との対面コミュニケーションが軽視されるべきではありません。大学でいえば、新入生のときから少人数でのゼミを行うことはとても大事です。これは企業においても同様で、ポストコロナ時代のコミュニケーションは、ハイブリッド（複数の方式の組み合わせ）で対応していくべきでしょう。また、日本は欧米や中韓に比べてもIT化が遅れていますから、これを契機に技術革新に弾みをつけることも大事です。

とはいえ、ITやAIだけで人間の幸せや満足は得られません。仕事の疲れや沈んだ心を癒すものは、音楽や美術、演劇などの文化・芸術です。コロナ禍はそれを如実に示しました。例えば、感染爆発を起こしたイタリア（クレモナ）で、病院の依頼を受けた日本人バイオリニストがその屋上で演奏し、コロナの最前線で闘う多くの医療従事者が励まされました。フィレンツェでは、都市封鎖が解除された日に当地のオペラ歌手が街頭でアリアを披露し、それをインターネットで聴いた多くの人々が涙しました。未曾有の難局にあって、人々の心を癒す文化・芸術の力を忘れてはなりません。

アメリカでは、ニューヨーク州のクオモ知事が、「ニューヨークは医療崩壊の危機にある。全米の心ある人は、ニューヨークへ助けに来てください」とテレビで訴えたところ、医師や看護師が危険を知りながら1,000人近く駆け付けました。私はそうした行動に人間の偉大さを感じます。

音楽で人々を慰めたり、わが身の危険を顧みず困っている人の助けになりたいという人が多くいる一方、自己中心的な言動で国民を危険に晒すリーダーがいたり、都市封鎖が引き金で暴動や略奪が起こるなど、コロナ禍は人間の美醜の双方を浮き彫りにしました。

関西ならではの危機管理体制や提言を

大震災の教訓――　文化・芸術面での支援という観点でいえば、阪神・淡路大震災後の兵庫県の対応が参考になります。このほど亡くなられた山崎正和氏は、「被災地におにぎりが必要だが、文化を忘れてはいけない」といって、『ゲットー』という劇を上演されました。今でこそ「Build back better（災害前より良いものをつくろう）という国連のスローガンがありますが、そんな言葉がない当時、兵庫県は、貝原俊民知事のもと「創造的復興」を掲げて、複合リゾート文化施設「淡路夢舞台」や兵庫県立芸術文化センター（西宮市）、兵庫県立美術館（HAT神戸）などを創設しました。財源には限りがあるし、壊れた町を元に戻すだけでも大変なのに、人々の心の渇きに応える文化・芸術施設をつくったのです。

また、阪神・淡路大震災の後に関西広域連合が組織されました。2011年、東日本大震災が起きると、すぐさま連合会議が招集され、連合長の井戸敏三兵庫県知事が「大震災を経験した我々だからこそできる支援をしよう。ついてはカウンターパート（対応相手）を決めたい」と呼びかけたら、普段は対抗意識の強い橋下徹大阪府知事が真っ先に、「わかった。割り当ては連合長で決めていただきたい。我々はそれに従う」と述べ、全会一致を見ました。こうして兵庫県は宮城県、大阪府は岩手県、京都府は福島県といった割り当てが決まり、阪神・淡路大震災の経験を生かして、混乱している被災地からの要望を待たずに必要不可欠な物資を緊急輸送する「プッシュ型支援」が速やかに実行されたのです。

このように、この度のコロナ禍にあっても、関西の各府県で相互支援するような危機管理体制の見直しや、関西ならではの提言を中央に届けることも大事だと考えます。関西・大阪21世紀協会には、そうした結節点としての役割も期待しています。

五百旗頭 真 氏　1969年京都大学大学院法学研究科修士課程修了。81年神戸大学教授。法学博士。日本政治学会理事長、英国ロンドン大学客員研究員、米国ハーバード大学客員研究員、防衛大学校校長等を経て2018年より現職。専門は日本政治外交史、政策過程論、日米関係論。

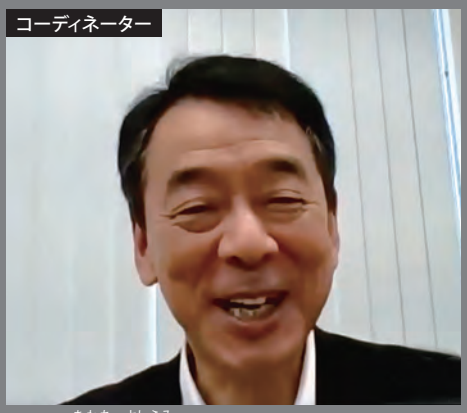
WEBで配信する

関西・大阪文化力会議 2020
～ 和食フォーラム ～

2020年7月22日　主催：関西・大阪21世紀協会

yoheyy作（アートストリーム2017 関西・大阪21世紀協会賞受賞）

第一人者が語る日本の伝統的食文化『和食』の魅力と影響



コーディネーター
宗田（むねた） 好史（よしふみ）氏　京都府立大学教授

パネリスト
辻（つじ） 芳樹（よしき）氏　辻調理師専門学校校長

パネリスト
平松（ひらまつ） 博利（ひろとし）氏　株式会社ひらまつ総合研究所代表

パネリスト
巽（たつみ） 好幸（よしゆき）氏　神戸大学海共生研究アライアンス長

パネリスト
田中（たなか） 愛子（あいこ）氏　内閣府SDGsのためのフードスタディーズ研究会発起人幹事

開催にあたって

関西・大阪21世紀協会
理事長　**﨑元 利樹**

新型コロナウイルス感染症の影響で、2020年東京オリンピック・パラリンピックが1年延期されましたが、2025年には大阪・関西万博が予定され、それまでに国際観光を何としても復興させることが望まれています。関西には豊かな文化資源、観光資源があり、とりわけ外国人観光客の「和食」に対する関心が高まっています。こうした状況をふまえ、関西・大阪文化力会議2020では、世界規模で推進されているSDGsのすべてのゴールに深く関わる「食」をテーマに、日本の伝統的食文化でありユネスコ無形文化遺産にも登録されている「和食」について、その魅力や現状、世界に与えた影響などを考察します。また、関西から和食文化を発信するフードスタディー学会の立ち上げについても取り上げます。

パネルディスカッションでは、食に関するさまざまな分野の第一線でご活躍の方々から、貴重なご意見をいただきます。

YouTubeで公開中

本フォーラムは、2020年4月に大阪商工会議所（国際会議ホール）にて開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により延期していました。このたびWEB会議システムを使用して開催すると同時に、当日はインターネットでライブ配信し、皆様にご視聴いただきました。フォーラムの模様については、YouTube（当協会公式チャンネル）にて公開中です。

https://www.osaka21.or.jp

基調講演 ＜要旨＞

※宗田好史氏が講演原稿を代読および説明。関西・大阪21世紀協会ホームページにて公開中です。

和食はこんなに素晴らしい

こいずみ　たけお
小泉 武夫氏
東京農業大学名誉教授

食文化は、その土地の気候風土や地理的条件と密接に関係している。日本では、降雨量の多さや四季があること、列島の中央に山脈があり、海流が交差する位置にあることなどである。

とりわけ水の良さは重要である。日本の年間降水量は世界平均の1.8倍もあり、山林の地下にしみ込んだ雨水や雪解け水は、料理や酒造りに欠かせない「うまい水」として和食文化を育んできた。主食の米をとぐのも炊くのも、副食の味噌汁も、そこに入れる豆腐も、さらには煮物やおひたし、お茶にいたるまで、すべて水が良くなければ美味しくならない。まさに、日本人は水を食べているようなものなのである。

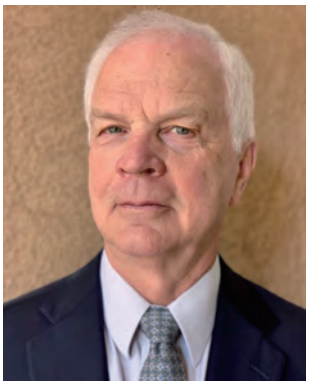
和食の特徴に「旬」がある。漁獲量や収穫量が盛りにあたる時期の食材をいい、春夏秋冬それぞれに美味しいものが移り変わる、日本ならではの概念といえる。英語やフランス語には、旬の意味を正確に表現する言葉がないらしい。その点、日本人は食材の美味しさや食べごろを季節ごとに整理し、それを「旬」の一語でいい表す知恵と粋(いき)さを持っている。もとより、旬のものは多くとれるから値が安く新鮮であり、美味しいのは当たり前なのである。

「出汁(だし)」も和食の妙味の一つである。その材料の代表は鰹節で、主成分のイノシン酸ヒスチジン塩は熱湯にすぐ溶け出すことから、煮立った湯に入れてすぐ火を止めるか、煮立つ直前に入れて、煮立ったらすぐに取り出さなくてはならない。鰹と相性のいい昆布(グルタミン酸)も、1分も煮立てればすぐに引き上げる。何か月も手間ひまかけて作った材料の役割を、わずか数分間で終わらせてしまう贅沢な出汁のとり方は、何となく粋で和食の真髄のようなものを感じさせる。

また、味噌や醤油、漬物など、発酵食品なしに和食は成り立たない。高温多湿であるため発酵を促す微生物が多く存在することや、材料の農産物、海産物、そして塩が入手しやすい環境が生んだ食文化である。発酵食品には体によい滋養成分が含まれ、免疫力を高める効果も示唆されるなど、保健的機能性を秘めた長寿食としても注目されている。和食は発酵食品の宝庫なのである。

1943年福島県の酒造家に生まれる。農学博士。専門は発酵学・食文化論。農林水産省政策研究所研究員、全国地産地消推進協議会(農水省)会長、NPO法人発酵文化推進機構理事長などを兼務。

SDGsとフードスタディー



Stephen Nussbaum
ステファン・ヌスバウム氏
ガストラボ・インターナショナル
拡張・開発担当ディレクター

2018年の夏、私は大阪樟蔭女子大学と協力し、留学生向けに日本の食の問題とSDGsを学ぶプログラムをつくった。私が所属するガストラボ・インターナショナル(Gustolab International Institute For Food Studies)は、そうしたプログラムに沿ってイタリアや日本、ベトナムで、留学生たちに食を通じて社会の課題を学んでもらう「フードスタディーズ」に取り組んでいる。

食べ物は人間と世界の間にあり、生活のあらゆる側面をつないでいる。ゆえにフードスタディーズは、自然科学から人文科学まで食べ物に関連する全ての学術的知見に加え、企業人や料理専門家、消費者などからの意見にも着目する「学際的研究」である。

国連食糧農業機関(FAO)は、「食糧はSDGsの17の目標すべての中心にある」と唱えている。貧困や飢餓、環境、エネルギー、健康などの問題にアプローチするには、新しい知識を得ると同時に、その知識を他の人々と共有しなければならない。それはとりもなおさず、世界中の人々が自分自身だけでなく、隣人のことを考え、これまでとは違う見方で世界をよりよくしようという取り組みに他ならない。こうした考えを後押しするため、今年、内閣府が運営する「地方創生SDGs産学連携プラットフォーム」に分科会として「SDGsのためのフードスタディーズ研究会(FSRI：Food Studies for SDGs Research Institute)」が設置された。同分科会では、将来的に日本と外国の研究者が共同で行う比較研究プロジェクトや学術誌の発行、学術会議開催の支援などを行うためネットワークの構築を進め、学術的な情報や食に関する活動などを出版物やウェブサイトを通じて発信する。

日本は海山の幸に恵まれ、人々の食への関心も高く、技術的に洗練された和食文化を持つ。CSA(地域支援型農業)プログラム発祥の地であり、小規模農業の知見も深く、世界最大かつ先進的な農業協同組合もある。諸外国にとって日本から学ぶことは多く、こうした知識を共有することでSDGsに対する責任感の共有にもつながる。SDGsは、我々の考え方や行動を変える挑戦といえる。日本は、この挑戦に対する世界の対応をリードしていくことになるだろう。

国際教育やアメリカとアジアの大学ネットワークの開発に幅広く活躍。コーネル大学で文化人類学の博士号を取得。イリノイ大学、ニューメキシコ大学、早稲田大学などで、国際教育の上級職と人類学の教授を務める。

パネルディスカッション＜要旨＞

宗田 好史氏
（コーディネーター）

宗田　パネルディスカッションでは、コロナ禍の食への影響も含め、和食の世界発信や2025年大阪・関西万博を見据えて、和食文化をいかに発展させていくかについてお話しいただきます。まずは、皆様の日頃のご活動を通した思いなどをお伺いいたします。

和食発展に貢献し影響を与えた大阪

辻 芳樹氏

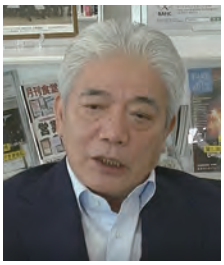
辻　日本の近世以降の食文化を考える上で、最も重要な都市が京都、江戸（東京）、大阪です。食文化や料理の歴史というのは、経済的あるいは政治的権力者が牽引する部分が大きいからです。

なかでも大阪は、17世紀以降、商業・金融の拠点として、町人が主役となり京都や江戸とは異なる独自の食文化や芸術・芸能などを育んできました。とくに西回り航路（日本海沿岸を西へ進み、下関経由で瀬戸内海・大阪に至る海上ルート）が整備されると、全国から集まるさまざまな食材によって食文化はさらに豊かになりました。こうした中から、裕福な商人層が優れた料理人を育てる気風も生まれました。有名な料亭「吉兆」は、そうした大阪らしさの最後のシンボルだったのかもしれません。

かつて大阪に全国の特産物が集中していたように、これからはアジアそして世界のハブとして食の情報を集め、世界にも通用する料理人を発掘・発信していくことが望ましいと思います。

宗田　辻静雄前理事長がポール・ボキューズ氏（1926～2018年、フランスの三ツ星レストラン<ポール・ボキューズ>のオーナーシェフ）を吉兆にお連れし、それがヌーベル・キュイジーヌ（1960～70年代にフランスで創作された新しいスタイルの高級料理）につながったと伺っています。御校が世界と大阪を食でつながれたとともに、大阪には、和食で世界の食をリードする歴史があったのですね。

地産地消で新たな料理を追求

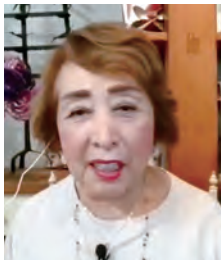

平松 博利氏

平松　ポール・ボキューズ氏は私の師匠で、1970年の大阪万博で来阪した際には、辻静雄先生からいろいろ教えていただいたと聞いています。ヌーベル・キュイジーヌの基本は地産地消です。それまではルセット（レシピ）に従って、遠方から材料を取り寄せていたのですが、「まずは市場に行き、そこで料理を考える」というのがヌーベル・キュイジーヌの根本精神です。ボキューズ氏の先生であるフェルナン・ポワン氏（1897～1955年）は、料理修業中の私たちに向け、「自分の故郷に帰り、その市場に行き、その町の人のために料理をつくりなさい」という言葉を遺しています。

こうした教えを受けた私たちは、今、「なら食と農の魅力創造国際大学校」で20～30代の人たちと一緒に畑を耕し、そこで収穫したもので料理をつくっています。また、ひらまつ総合研究所では、和食とフランス料理をクロスオーバーさせて、新しいフランス料理や新しい和食を生み出す研究をしています。

宗田　ポール・ボキューズ氏と辻静雄氏に始まった大阪と世界のつながりが、今まさに新たな段階を迎えています。ボキューズ氏のお弟子さんの平松先生が活動されていることは、まさにフードスタディーズが目指していることでもあります。

日本のフードスタディーズ


田中 愛子氏

田中　大阪樟蔭女子大学では、平松先生がおっしゃったように、「Farm to Table」すなわち畑で育て収穫したものを料理して皆で食べるという家庭料理の基本を軸に、フードスタディーズを実践しています。

フードスタディーズは、1988年にニューヨーク大学で始まりました。その原点は、ベトナム戦争を契機として若者を中心に反体制的な考えが広がる中、自給自足のオーガニックな食生活や地球環境保護などを生活者の視点から考えようとしたことにあります。現在、フードスタディーズを行う学校は世界的に増えており、私は内閣府の地方創生SDGs官民連携プラットフォーム「SDGsのためのフードスタディーズ研究会（FSRI）」の発起人としても活動しています。

アフターコロナに限らず、私たちは家庭の食卓から始まる未来への歩みを考えなければなりません。健康であるための料理だけでなく、食卓を囲んで談笑したり、食器を愛でたり、食材のルーツを知ることも重要です。同時に、世界中で8億人もの人々が飢えている現状も忘れてはなりません。こうした食への愛情と知識を深める重要性を、広く発信していきたいと思っています。

宗田　オーガニック料理や環境保護など、かつては個別に行われていた活動が、今やグローバルな取り組みとして世界中に広がっています。さて、自然科学の知見に基づき、地球的視野で和食の魅力をご解説いただけるのが巽先生です。

出汁と明石鯛
世界一の変動帯「日本列島」からの贈りもの

巽 好幸氏

巽　私たちが暮らしている日本列島は、地球上で起きている地震や火山活動の約1割が集中しているところです。そのため、自然から大きな試練を突き付けられていると同時に、その裏返しとして美味しい和食がいただける恩恵も得ているのです。例えばお出汁。昆布の旨味成分であるグルタミン酸は軟水によく抽出される

のですが、日本の水が軟水なのは、300万年前の地殻変動によって日本列島に急峻な山ができたからです。川の水は急流で、地中に含まれるカルシウムやマグネシウムを溶かす時間がなく硬水になれないからです。

また、明石の鯛が美味しいのは、潮流の速い中で泳いでいるため、旨味成分（イノシン酸）を多く持つ筋肉質な体になったからです。これも300万年前の地殻変動で、瀬戸内海に狭いところ（瀬戸）と広いところ（灘）ができたことで、瀬戸の潮流が非常に速くなったからです。このように、どうして和食が美味しいのかを知りながらいただくことも大事なことだと思います。

宗田　巽先生のご著書『和食はなぜ美味しい～日本列島の贈りもの』を読ませていただきました。本フォーラムをお聴きの皆様には、ぜひ手に取ってお読みいただければ、地球の歴史と食文化の深い関わりがよくわかっていただけると思います。

ポストコロナ時代に向けて

宗田　新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、今後の食文化や観光、経済などをどう回復させていくか、2025年大阪・関西万博をどう発信していくのかが課題となっています。

辻　大阪にとって万博やIR、食文化面でのハブ化への準備は重要課題です。SDGsの達成に向けて今後数年間でどれだけ準備できるか、大阪は外国人人材をどのように受け入れていくかも大きな課題ですが、これらを推進するためにはインフラが整備されていなくてはなりません。まずは現実的な諸問題の解決が非常に重要になってきます。食文化に関していえば、日本の食文化をそのまま発信する試みは、すでに尽くされています。和食の料理技術や科学的根拠などは世界的に共有されていますので、日本人だけが日本料理をイノベートできる時代ではなくなってきていると思います。

田中　おっしゃる通りですね。アジアの国々でも日本料理を学ぶ人や機会がずいぶん多くなりました。フランスにプロヴァンス料理やリヨン料理があるように、日本にも多種多様な郷土料理があります。そうした日本料理の全体像をちゃんと伝えることも、イノベーションを生むためには必要ですね。

平松　日本各地にはさまざまな食文化がありますが、それを特徴づけている古来原種の「種（たね）」がなくなりつつあります。例えば奈良県では、スイカを改良していく中で、昔ながらのスイカをいかに残していくかが大きな課題となっています。地場産の種を残すことは、地域特有の食文化を受け継いでいくことなのです。こうした取り組みは全国の農業大学校で行われていますが、その情報を共有できればなおいいと思います。

巽　美味しい食べ物には、必ず地学的、地理学的な理由があります。それを日本だけでなく世界各地でも考えるようにする。そうした地球的視野で食べ物を考えていくべきだと思います。コロナでグローバリズムが危険視されていますが、ポストコロナの時代には、地球を食べ物も含めて一つの生命体とみなすような世の中に変わっていくような気がします。

食文化とグローバリゼーション

宗田　コロナ終息後のグローバル化については、肯定・否定両方の意見があり手強い問題です。今後は、インバウンドをどう受け入れていくのかという議論も必要になります。

平松　長い年月をかけて展開されてきたグローバリズムは、すでに資本主義の潮流になっており、コロナ終息後も止めることはできないでしょう。私は、インバウンドも食文化も産業も今は休憩中といった感じで、ウィズコロナであれ、アフターコロナであれ、ガラッと変わることはないと思います。

辻　私は、長期的に見て日本は変わらないといけないと思います。料理の伝統を守り、かつ革新していくためには、作る者も食べる者も知性と教養を持って世界中の情報を吸収していかなければなりません。そういう意味でのグローバル化は必要で、それによって日本の食文化をいかに発信していくかを、深く考えて活動すべきだと思います。

田中　食に関する教養は消費者にも必要だという辻先生のご指摘は、私が行っているフードスタディーズを基本とした食育活動とも通じ、とても心強く思います。

巽　私はこれからも、食に関して地球がどういう役割を果たしてきたかを調べていきたいと思います。もちろん私自身も食を楽しみ、その魅力を世界に広げていきたいですね。

平松　日本人の料理人は職人気質な人が多いようですが、アーティストのように料理で自分を表現するような人を育てることも、グローバル化に対応する一つの方法だと思います。

宗田　食に携わる若者に夢を持ってもらい、内なるイノベーションやクリエイティビティを発掘する。それが文化になると思います。大阪・関西から、そうした新しい動きが出てくることを期待します。本日はありがとうございました。

宗田　好史氏　1956年静岡県出身。法政大学工学部建築学科卒業、同大学院を経てローマ大学大学院などへ留学。国際連合地域開発センターを経て1993年より京都府立大学。専門は都市・地域計画、歴史都市保存計画、文化財保存、観光政策、和食文化学。

辻　芳樹氏　1964年大阪府出身。1993年学校法人辻料理学館 理事長、辻調理師専門学校 校長に就任。2018年フランス国家功労勲章「シュヴァリエ」受章。2019年G20大阪サミット「首脳夕食会」でエグゼクティブ・プロデューサーを務める。

平松　博利氏　1978年、フランス料理を学ぶため渡仏。1982年帰国し、東京・西麻布に「ひらまつ亭」開業。1994年「株式会社ひらまつ」設立。2016年「奈良県立なら食と農の魅力国際大学校（NAFIC）」校長就任。2020年同名誉校長。

巽　好幸氏　1954年大阪府出身。京都大学理学研究科教授、東京大学海洋研究所教授、海洋研究開発機構プログラムディレクターなどを経て2020年から現職。日本地質学会賞、日本火山学会賞、米国地球物理学連合ボーエン賞など受賞。

田中　愛子氏　結婚後、夫の仕事でニューヨークへ渡り、世界の家庭料理・食文化を研究。2009年「食育ハーブガーデン協会」を設立。食育に力を注ぎ、「食卓のフィロソフィー」を提唱。2020年大阪樟蔭女子大学教授を退任し、内閣府「地方創生SDGs産学連携プラットフォーム」SDGsのためのフードスタディーズ研究会発起人幹事就任。

現代美術家

笹岡由梨子さん

コロナをきっかけに自分を変える

メッセージ

操り人形に自身の顔などを合成する映像作品で注目され、海外の展覧会でも人気の笹岡由梨子さん。非現実の人形劇にデフォルメした現実をはめ込んでつくる世界観は、ユーモラスであり、不条理なようでもある。「これまでにない表現方法で、〝今〟という時代を切り取って見せるのが現代美術」という笹岡さんは、作品にさまざまなメッセージを込めている。

例えば、操り人形が生きている魚（アジ）をさばき、焼いて、食べるようすをノーカットで撮影したショートムービー『anima／正義の料理人』（2014年）。「食べる者にとっては正義でも、食べられる者にとっては不正義。人間社会にもこれと似た状況はある」といわれて何となく納得したが、仕事場の壁に「死」の付く言葉がたくさん貼り出されている意味を聞いて、その真意にはっとさせられた。

「孤独死であれ、殉死であれ、そして自死であっても、何らかの社会的な力による〝他殺〟だと解釈できるのではないか。であれば、そうした死を生む私たちや私たちの社会にも責任の一端があるのに、都合のいい言葉で死を他人事にしてしまっている。スーパーで売っている魚を、私たちが生きるために殺した〝死体〟ではなく〝食材〟とみているように、私たちは生命の尊厳という感覚がマヒしているように感じる」

笹岡さんはそのことに気づき、たくさんのドローイングをマインドマップのように壁に貼り出しているのだった。

『anima／正義の料理人』（YouTubeより）
操り人形芝居はチェコの文化を彷彿させる。欧米の西洋美術が席巻する現在、笹岡さんは東欧美術の力強さに魅力を感じ、ポーランドやロシアなどを拠点に活動を広げていきたいという。

先人から学ぶ

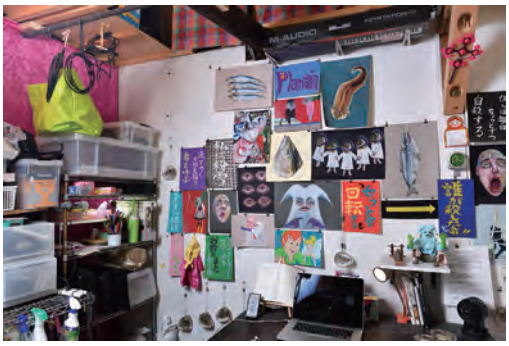
大阪府出身の笹岡さんは、京都市立芸術大学美術学部（油絵専攻）を卒業後、同大学院修士課程で油絵、博士課程でメディア・アートを専攻し2017年に満期退学。第19回岡本太郎現代芸術賞特別賞（2016年）、群馬青年ビエンナーレ2017大賞（2017年）、京都府新鋭選抜展最優秀賞（2019年）、令和元年度咲くやこの花賞（2019年）など、数々の受賞歴を持つ。母校で非常勤講師を務める一方、ロシアやポーランドなどでの滞在制作や、今年1月にはアジア最大級の現代美術アートフェア「台北當代（タイペイタンダイ／台湾）」に出展するなど、海外での活動も多い。

しかし、そんな日常がコロナ禍で一変した。出展を予定していた国際美術展が次々中止され、大学はオンライン授業になって学生とじかに顔を合わせることもできなくなった。全ての当てが外れて3〜4月は悶々と過ごしていたが、やがて、この期間を自分を変えるために使おうと気持ちを切り換えた。新たな表現方法を試したり、人に手伝ってもらっていた撮影や録音を自分でしたり、出展予定がなくなった分、締め切りに追われることなく作品づくりを楽しむことにした。

また、過去の作家が戦争や疫病などの苦境をどのように作品に昇華させたのか、それを知るために西洋美術史の本を再度読み返している。「コロナだからできないのではなく、コロナだからこそしなくてはならないことがあるはず。それを先人から学びたい」と前を向く。さらには、コロナ禍で制作意欲を失くしたり、アルバイトができなくなったりした学生たちの励みになればと、YouTubeへの動画配信も継続している。自身の作品づくりの苦悩や喜びを振り返る『笹岡ゼミ・前編』や家計の節約術など、現代美術家としてコロナ禍を知恵と工夫で乗り切るアイデアを発信している。

映像製作には出費がかさむ。そのために生活を切り詰めても苦にしない。むしろ、それを楽しもうという気概すらある。「落ち葉を食べてでも作家でありたい」。そういって微笑む笹岡さんに、関西の現代美術家としてのハングリーさと純粋さを感じた。

（ライター 三上祥弘）



自画像など数々のドローイングが貼り出されたスタジオ
（京都市・Vostokにて）

EXPO'70基金　2020年度採択事業決定

2025年大阪・関西万博に向け、1970年万博の理念を継承・発展させ、新たな時代の価値創造へとつなぐ活動などを助成

50事業・総額8,200万円を助成

1970年の日本万国博覧会の収益金を基につくられた、EXPO'70基金。関西・大阪21世紀協会は、その運用収入の50%を用いて、「日本万国博覧会 開催の意図*」の趣旨に適った活動の助成に取り組んでいます。

2020年度は、2025年大阪・関西万博に向け、EXPO'70の理念を継承・発展させ、新たな時代の価値創造へとつなぐ活動を優先採択テーマとして公募。昨年7月～9月に国内外の団体から179事業の申請があり、万博記念基金事業審査会（外部委員）の審査を経て、50事業・総額8,200万円の助成を決定しました。

なお、今年度はコロナ禍の影響により、事業の実施期間内（2021年3月末まで）での開催ができない事業については2021年12月31日まで延長を認めるとともに、国外への渡航が制限されているため、オンライン開催など実施内容が変更された事業の助成については、個別に判断することとなりました。

2020年度日本万国博覧会記念基金助成事業

申請件数 179件

内訳
国内事業者：重点事業14件、一般事業139件
国外事業者：重点事業3件、一般事業23件

採択件数 50件

内訳
国内事業者：重点事業なし、一般事業41件
国外事業者：重点事業なし、一般事業9件

※重点事業は審査の結果、該当なしとしました。

＊日本万国博覧会 開催の意図（抜粋）

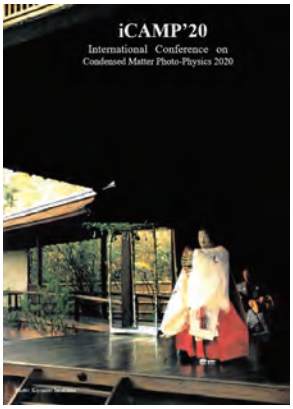
日本万国博がめざしたものは、世界にはさまざまな文明が多元的に共存することを、理解と寛容の精神によって認め、それらの多様性の調和の中にこそ進歩が望まれなければならない、という「調和的発展」の精神でした。これは東洋思想の「和」の心を現代世界に呼び戻して、東西を結ぶ新しい理念として発展させようとするものでした。

2020年度採択事業の一例

凝縮系の光物性物理学国際会議2020

事 業 者：凝縮系の光物性物理学国際会議2020
期　　間：2020年7月～9月（オンライン会議）、11月30日～12月1日（集合会議）
開催場所：オンライン会議はインターネット利用、集合会議は京都然林房

光物性物理学において、将来の進むべき方向を探るとともに、日本が世界の指導的立場に立ち、開拓者精神を持った若手研究者を育てることを目的とした国際会議を開催します。併せて、日本文化を世界に向けて発信します。



開催案内

「失われたクメール美術」国際文化交流 ― 恒久的世界平和を目指して ―

事 業 者：アジアデザインアート展覧会コンソーシアム
期　　間：2020年9月～11月頃
開催場所：カンボジア、日本

ポルポトの文化破壊によって失われたカンボジアの歴史と伝統のクメール美術。その美術教育の復活を目指した国際文化交流展とシンポジウムを開催します。小学生などを対象とした美術ワークショップも数多く行います。

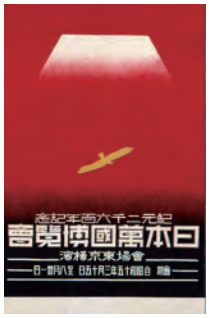
自分の思い描くアンコールワット

クメール美術授業風景　初めての筆と絵具

特別展「博覧会の世紀」展

事 業 者：長崎歴史文化博物館
期　　間：2021年10月1日～11月28日（予定）
開催場所：長崎歴史文化博物館

19世紀から20世紀にかけて国内外で開催された博覧会の歴史を、絵画、歴史、工芸資料などを通じて紹介します。時代を映す鏡である博覧会と人々はどのように向き合ってきたのか、2025年の大阪・関西万博開催に向けて考えます。



1940年 紀元二千六百年記念日本万国博覧会

1872年 文部省博覧会

比較文明学会国際シンポジウム「いのち」をめぐる文明的課題の解決に向けて

事 業 者：千里文化財団
期　　間：2020年11月21日～11月23日
開催場所：国立民族学博物館

1970年大阪万博の理念「人類の進歩と調和」をいかに継承し、2025年大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」にどうつなげるかを比較文明学の視点から検討する国際シンポジウムを開催します。

「第37回比較文明学会大会シンポジウム風景（中央大学、2019年）」

フリゲート・エルトゥールル号の発掘、広報、教育事業

事 業 者：BOSAV（トルコ）
期　　間：2021年度で90日間
開催場所：串本町、和歌山市、大阪市、東京都、札幌市、福岡市、秋田市を予定

日本とトルコの強い絆を生んだエルトゥールル号の沈没事故（1890年・串本町大島樫野崎沖）や、トルコ文化について知ってもらうことを目的に、日本各地で「エルトゥールル移動実験室」と名付けたパイロット・イベントを開催。沈没現場から発掘した遺品の一部を展示・紹介するとともに、日本とトルコの友情の歴史を解説します。　串本町では、沈没したエルトゥールル号の発掘と研究を実施。掘削地域にマスコミ関係者を集め、2007年から継続する発掘事業と発掘品を公開し、トルコと日本の友好メッセージを発信します。

沈没現場から遺品を発掘するダイバー

日本の学生に発掘された遺品について説明する様子

※各事業の実施時期、実施場所などについては、状況により変更されることがあります。　※写真は各事業者より提供

2020 年度　日本万国博覧会記念基金助成事業一覧

1 国際文化交流、国際親善に寄与する活動（一般助成事業）　★印は外国で行われる事業（国内団体含む）

事業者名	事業名	決定金額（万円）
地球音楽プロジェクト実行委員会	ジョヴァンニ・ソッリマ来日公演 2020 Theory of the Earth 地球の躍動～チェロと三味線とオーケストラのための	300
★アジアデザインアート展覧会コンソーシアム	「失われたクメール美術」国際文化交流 ― 恒久的世界平和を目指して ―	240
★特定非営利活動法人 フェア・プラス	フィリピンの山村への生活支援事業と日本の農村の伝承技術との国境を越えた連携による普遍的価値の発信	210
★特定非営利活動法人 魁文舎	声明の会・千年の聲「螺旋曼荼羅海会」北米ツアー	150
★特定非営利活動法人 東京高円寺阿波おどり振興協会	東京高円寺阿波おどり 2020 サイパン公演	150
★International Development Field Camp for Myanmar and Japan Youth Leaders	IDFC 日本ミャンマー学生会議	140
日本環境ジャーナリストの会	アジア環境ジャーナリスト交流：日本の気候変動対策ビジネスを日本とアジアの記者が共同取材し、その結果を紙面やシンポジウムで報告する	110
歴史街道推進協議会	日本文化体感プログラム　関西の歴史・文化体験を通じた首都圏留学生と地元大学生の交流事業	180
★特定非営利活動法人 AfriMedico	タンザニア農村部への「置き薬」設置を加速化するための顧客台帳電子化事業	100
特定非営利活動法人 Little Bridge	東京オリンピックにおけるボスニア・ヘルツェゴヴィナ代表選手事前キャンプおよび日本とボスニア・ヘルツェゴヴィナとの交流事業	230
★一般社団法人 タチョナ	ご近所映画クラブ in タイ	100
★公益財団法人 山本能楽堂	Noh for SDGs ～新作能「オルフェウス」持続可能な社会の実現に向けて日本の伝統文化を世界に発信（河床）	180
ミュージックジェネレーション・ジャパンチーム	マイケル・ルーニー、ジューン・マッコーマック＆ミュージックジェネレーション・リーシュ・ハープアンサンブル日本ツアー 2020	50
★一般社団法人 古伊万里再生プロジェクト	オーストリア・ロースドルフ城「陶片の間」における日本文化ワークショップを通じた国際交流	100
特定非営利活動法人 ACROSS	日本・カンボジア未来交流プログラム	90
★・エコツミ・プロジェクト	日本神話発信事業　コンテンポラリーオペラ「KOJIKI」	140
★一般社団法人 オフィスアルブ	Echoes of Calling	100
★佐渡祭ワールドツアー実行委員会	世界で門付けを「ドバイ国際博覧会 × 佐渡祭ワールドツアー」プロジェクト	240
一般社団法人 東京国際合唱機構	第 3 回東京国際合唱コンクール	200
★芭蕉繊維研究会	ミャンマーにおける糸芭蕉の利用をとおした農民の所得向上と相互の伝統的織物産業の活性化に向けた交流事業	210
★一般社団法人 P	舞台芸術作品の創作、上演を通じた東南アジア・欧州の文化交流プロジェクト	150
★一般社団法人 教育支援グローバル基金	ビヨンドトゥモロー　アジア・サマープログラム 2020	170
★East Asia Theater Interaction 実行委員会	東アジア国際舞台芸術交流プログラム 2020 in Fukuoka	240
★国立カタルーニャ美術館（スペイン）	企画展「火の色：濱田からアルティガスへ」	210
★テネシー州アジアンカルチャーセンター（アメリカ）	テネシー州アジアンカルチャーセンター	150
★ウェリントン・ジャパン・フェスティバル・トラスト（ニュージーランド）	2020 年ジャパン・フェスティバル・ウェリントン	180
★フィラデルフィア日米協会（アメリカ）	ジャパン・フィリー 2020：一年間、無数のつながり	240
バンクーバー・インターカルチュラル・オーケストラ（カナダ）	日本・カナダ　作曲家交流プロジェクト　バンクーバー・インターカルチュラル・オーケストラ＆九州・沖縄作曲家協会	140
★Noh Society,Inc.（アメリカ）	能レクチャー公演北米ツアー	120
カンパニー・ニュー・ヒーローズ（オランダ）	ミレニアル世代との出会い	100

2 教育、学術に関する国際的な活動（一般助成事業）　★印は外国で行われる事業（国内団体含む）

事業者名	事業名	決定金額（万円）
特定非営利活動法人 セイブ・イラクチルドレン・名古屋	イラク医師の日本での医療研修・国際交流とその広報	100
国際細胞老化研究会 2020 年度学術会議実施委員会	国際細胞老化研究会 2020 年度学術会議	210
第 8 回アジア・パシフィック少数多体系物理に関する国際会議組織委員会	第 8 回アジア・パシフィック少数多体系物理に関する国際会議	100
凝縮系の光物性物理学国際会議 2020	凝縮系の光物性物理学国際会議 2020	50
公立大学法人 京都市立芸術大学	芸術資源研究センター重点研究プロジェクト　― バシェの音響彫刻 特別企画展 ―	140
The First Symposium on Carbon Ultimate Utilization Technologies for the Global Environment 組織委員会	The First Symposium on Carbon Ultimate Utilization Technologies for the Global Environment	270
第 7 回国際植物細胞壁生物学会議組織委員会	第 7 回国際植物細胞壁生物学会議	100
一般財団法人 千里文化財団	比較文明学会　国際シンポジウム：「いのち」をめぐる文明論的課題の解決に向けて	100
日本地球掘削科学コンソーシアム	人類未踏のマントルへの挑戦：水惑星地球の未来予測に向けた根本課題の検討	150
第 14 回宇宙空間シミュレーション国際学校 実行委員会	第 14 回宇宙空間シミュレーション国際学校	290
長崎歴史文化博物館	特別展「博覧会の世紀」展	210
情報・システム研究機構　国立極地研究所	アジア極地科学フォーラム年次総会	170
BOSAV（トルコ）	フリゲート・エルトゥールル号の発掘、広報、教育事業	180

※辞退を除く

新型コロナ禍において ASKは「アーティストファースト」の支援を行います

今年、世界を襲った新型コロナウイルスの影響により、芸術家たちは表現の場を失い、コンサートや演劇、展覧会などが私たちの前から消えました。そのことで私たちは、あらためて芸術や文化の恩恵に気づかされたのではないでしょうか。みなさまの寄付で芸術・文化を支援するASKは、今年度25件の活動を支援する予定です。すでに多くの活動が中止や延期に追い込まれていますが、ASKは「アーティストファースト」の視点で、きめ細かな支援を行っています。

2020年度採択事業のご紹介

音楽（岩井コスモ証券ASK支援寄金助成）

堀江恵太（ヴァイオリン）

活動概要▶自主企画によるコンサート活動など

堀江恵太さん

大阪府吹田市生まれ。3歳からヴァイオリンをはじめ、2004年から2010年にかけて「佐渡裕とスーパーキッズオーケストラ」に所属。2015年京都市立芸術大学音楽学部弦楽専攻を首席で卒業後、2018年ウィーン国立音楽大学修士課程を最優秀で修了しました。

帰国後は自身で「ケイタ・リング・カルテット」「トリオ・トリオ・カルテット」「YOuthful DreAmerS」など同世代の気鋭の演奏家たちとともに室内楽ユニットを主宰し、関西を中心に数多くのコンサートを自主的に開催しています。

兄の牧生さん（チェロ）、妹の詩葉さん（ピアノ）も傑出した演奏家として知られており、父の朝日放送アナウンサー堀江政生氏が曲目解説を行うファミリー室内楽トリオ「堀江トリオ」のメンバーとしても活躍。大きな注目を集めています。「堀江トリオ」は老人ホームや特別養護施設などへの出前コンサートを行ったり、カンパの収益を震災復興の支援に充てたりするなど、チャリティー活動にも熱心に取り組んでいます。

美術（一般助成）

TOCHKA（現代美術アーティスト・ユニット）

活動概要▶Back to the Future Festival」（オランダ）への参加など

©TOCHKA 2020

TOCHKAは、モンノカヅエさんとナガタタケシさんによる現代美術のユニットとして1998年に結成。絵画と映像の融合をテーマに「活動写真的」な映像を目指し、2005年からPiKA PiKAと自らが呼ぶ独自の映像手法を生み出しました。これはペンライトで描いた軌跡を写真に撮り、それを連続アニメーションとして見せることで、空中に手で描いた光の造形が画面の中を自在に動き回るという斬新な映像表現で、テレビコマーシャルでも使われて話題となりました。また、一般の人々が参加して実際にPiKA PiKAを体験するワークショップも各地で盛んに行っているほか、国内外で行われる国際アート展や映像フェスティバルに数多く招待されており、都市の風景を光の軌跡で浮かび上がらせる作品などで国際的に高い評価を得ています。今年度の活動としては、オランダで開催されるアナログ映像のフェスティバル「Back to the Future Festival」などへの参加を予定しています。

美術（一般助成）

三原聡一郎（現代美術アーティスト）

活動概要▶NISSAN ART AWARD ファイナリスト」展への参加など

《無主物》2020 Photo by Keizo Kioku
Photo Courtesy:NISSAN ART AWARD

三原さんは、電子的な機器やITなどを取り込んだいわゆるメディアアートの分野において、関西を拠点に国際的に活躍するアーティストです。自然現象をテーマに、環境と呼応するデバイス（機器）を自ら作り出し、そのデバイスを起点として、音、泡、水、火、電子、微生物、気流などの自然の物質や現象を「芸術」に読みかえ、空間に配置されるインスタレーション作品として提示します。自然との対峙を求めて、北極圏から熱帯雨林、あるいは軍事的な境界線やバイオラボなど、これまで世界中を渡り歩き、さまざまな自然の姿を身をもって体験してきました。

今年度、三原さんは、NISSAN ART AWARDのファイナリストに選ばれました。この賞は日産自動車が設けているもので、現在最も才能豊かな日本人の現代美術アーティストに贈られます。海外の著名な美術館館長や批評家などが国際的な視点でファイナリスト5名を選出し、受賞者は最終選考となるファイナリスト展で選ばれます。ASKはそのファイナリスト展に出品する三原さんの作品制作などを支援しています。

2020年度アーツサポート関西 助成先

●岩井コスモ証券ASK支援寄金助成：総額400万円

分　野	申請者	活動内容	交付額（万円）
美術 デザイン	笹岡　由梨子	人形の手や顔に実写パーツをはめ込んだシュールでユーモラスな人形劇風のビデオ作品で注目を集める。	80
美術 デザイン	佃　七緒	世界各地に滞在しながら日常生活の中の道具や家具への興味をもとに、ドローイングや陶素材の作品を制作。	70
美術 デザイン	堤　拓也	キュレーターとして共同アトリエ「山中Suplex」と「Studio Pay」を拠点にレジデンスやスクリーニングなどを実施。	50
美術 デザイン	宮坂　直樹	コルビジェが提唱したモデュロールなどの身体を尺度とした空間把握の基準を、作品として表現することを試みる。	50
美術 デザイン	野原　万里絵	場所の意味をイメージ化した「テンプレート」をもとに、多くの人を巻き込みながら巨大な絵画作品を手掛ける。	50
音　　楽	谷本　沙綾【継続助成】	2018年全国学生音楽コンクール第1位。新進気鋭のヴァイオリニスト。海外のマスタークラスへの参加などを予定。	50
音　　楽	堀江　恵太	大阪を拠点に活躍する俊英ヴァイオリニスト。ウィーン国立音楽大学修士課程卒。リサイタル活動を精力的に行う。	50

●一般助成：総額500万円

分　野	申請者 / 活動名	活動内容	交付額（万円）
美術 デザイン	TOCHKA（トーチカ） 「舞台『憑依するエミール・レイノー』の制作など」	ペンライトの軌跡をコマ撮りし空中に浮かぶ光のアニメーションとして表現する手法を確立。アニメーションの先駆者レイノーに捧げるオマージュの舞台を制作する。	80
美術 デザイン	三原　聡一郎 「NISSAN ART AWARD展の新作制作など」	メディアアーティストとして関西を拠点に活動。NISSAN ART AWARDファイナリスト。混沌とした自然を思弁的に表現するメディアアート作品を手掛ける。	50
舞 台 芸 術	林　慎一郎 「極東退屈道場『LG21クロニクル』上演など」	昨年、俳優と観客が移動しながら演劇を上演する回遊型公演が好評を博し、2020年度はその第2弾となる「LG21クロニクル」を上演する予定。	50
舞 台 芸 術	一般社団法人KIO 「ミュージカル『地下鉄1号線（仮称）』上演など」	児童劇団として全国の小中学校など年間100公演以上を行う。ドイツの同時代戯曲ミュージカル「line1」を舞台をベルリンから大阪に移して上演する。	50
伝 統 芸 能	林本　大 「自主公演『大の会』の開催など」	能楽師として日本の伝統文化の継承と普及に積極的に関り、自ら「大の会」を主宰。子どもたち向けの能教室にも力を入れた活動を行っている。	50
伝 統 芸 能	菊央　雄司【継続助成】 「平家復曲プロジェクトなど」	三味線、箏、琵琶、胡弓を弾きこなす邦楽演奏家。この世代のトップランナー。「平家復曲プロジェクト」に取り組み、失われた平家琵琶曲の復曲を行っている。	50
美術 デザイン	麥生田　兵吾【継続助成】 「作品集『Artificial S』の出版など」	2019年度からの継続助成。写真や芸術の意味を10年以上にわたり問い続けてきた写真シリーズ「Artificial S」の出版などを予定。	40
音　　楽	一般社団法人日本テレマン協会 「『高田泰治リサイタル』などの演奏活動」	大阪を拠点に18世紀バロック音楽を中心とした演奏活動を行う。自主公演は年20回におよぶ。注目のチェンバロ奏者高田泰治のソロリサイタルなどを予定。	30
音　　楽	公益社団法人大阪市音楽団 「『第132回定期演奏会』などの演奏活動」	1928年設立の日本最古のプロの吹奏楽団。2012年に市の運営から離れ民営化。教育普及活動にも力を入れ学校の吹奏楽の指導などにも積極的にあたっている。	30
音　　楽	音遊びの会 「ワークショップおよび自主企画公演など」	知的障害のある子どもたちとプロの演奏家がともに音楽をつくり舞台で演奏する。2005年から活動を開始。国内の国際芸術祭に招聘され演奏を披露することも多い。	30
舞 台 芸 術	武田　力【継続助成】 「『教科書カフェ』の開催など」	地域の民俗史などをもとに身体や演劇的な表現を模索。2020年度は「さいたま国際芸術祭」にて、鑑賞者が手に取る教科書が喚起する個の記憶や日本の歴史を問う作品を発表予定。	30
音　　楽	橋本　彩音 「『子どものためのコンサート第13弾』の開催など」	神戸大学の学生が中心となって子どもたちに一流のクラシック音楽を届ける演奏会の第13回の企画。2020年は「シリンクスフルートアンサンブル」を招聘予定。	20

●個別寄金助成：総額330万円

寄金名	申請者 / 活動名	活動内容	交付額（万円）
八千代電設工業伝統芸能支援寄金	志芸の会 「夏休みキッズ狂言教室の実施など」	大蔵流狂言方 善竹忠重が主宰し神戸を中心に活動。神戸市と連携し小学生を対象にした狂言教室を毎年開催している。	25
	特定非営利活動法人和歌の浦万葉薪能の会 「『第22回和歌の浦万葉』の実施など」	万葉集に謳われた和歌にちなみ、和歌の浦の野外舞台で薪能を上演。同時に子どもたちを対象にしたワークショップも行う。	25
上町台地現代アート創造支援寄金	湯川　洋康 「『上町台地→台湾→上町台地』の実施など」	アジア圏における移動と観光をアートと結びつけて考察。台湾と上町台地をつなぐアートの可能性を模索する。	20
コクヨ文楽支援寄金	公益財団法人文楽協会 「そうだ文楽へ行こう!! ワンコインで文楽」	国立文楽劇場での文楽本公演を30歳以下の若者に500円で鑑賞してもらう取り組み。2014年の開始から今年で7年目を迎えた。	250
一花さかせろ寄金	中田　粥 「『bottled water』の実施など」	創作楽器による音楽活動を支援する寄金から、シンセサイザーを分解してその部品で楽器を作り演奏する取り組みをサポート。	5
匿名寄金	空間現代 「海外公演活動など」	インディーズバンド活動を支援する寄金から、坂本龍一や詩人吉増剛造とのコラボレーションで知られる「空間現代」の活動を応援。	5

お知らせ

「モノde寄付」はじめました

不要になったモノで
私たちに必要な文化やアートを
育てるしくみです

買ったけれども今は使わなくなったブランドバックや美容機器、新しい機種に交換したまま処分せずに残っている古いスマホやパソコン、あるいは書棚でホコリをかぶっている書籍やCD、DVD。そうしたモノがアーティストの支援に生まれ変わります。アーツサポート関西「モノde寄付」は、オンラインでお申し込みいただいたら、あとは箱詰めをするだけでOK。ご希望の日時に無料で集荷にお伺いします。「いつか役に立つかも」「捨てるのはもったいない」と思ってとっておいたモノたちを、ぜひアーティスト支援にお役立てください!!

1 お申し込み

モノde寄付申し込みサイトからオンラインでお申込み。「ASK モノde寄付」で検索

※買取基準がございます。アーツサポート関西WEBサイトにてご確認ください。

2 箱詰め

ブランドバッグ、ビジネスバッグ、スマホ、カメラ、パソコン、美容機器、電動工具、書籍、コミック、CD、DVD、ゲームソフト、ゲーム機、おもちゃ、模型などを箱詰め。

※ダンボールはご用意ください。

3 無料集荷

運送会社のドライバーが印字済みの集荷用伝票をお持ちいたします。

QRコードからもアクセスできます。
※Bookoff Onlineのサイトに移動します。

詳しくはホームページをご覧ください。▶ https://artssupport-kansai.or.jp/

令和元年（2019）度　**大阪文化祭賞**

（2020年3月4日）

K★バレエスタジオなど8公演に贈呈

K★バレエスタジオ「33回メモリアルコンサート」公演風景 ©岡村昌夫（テス大阪）

大阪府内で上演されたさまざまな公演の中から、独創的で企画・内容・技法が特に優れた人や団体を顕彰する大阪文化祭賞（大阪府、大阪市、関西・大阪21世紀協会主催）。56回目を迎えた今年度（2019年1月1日～12月31日）は、数々の作品を遺して2019年3月に他界した舞踊家・矢上恵子氏の追悼コンサートを行った「K★バレエスタジオ」をはじめ、仮名手本忠臣蔵の通し上演を成功させた『仮名手本忠臣蔵 九段目 山科閑居の場』出演者一同、創立40周年（2020年）を控えて初期の代表作『唇に聴いてみる』を再演した南河内万歳一座の3公演が大阪文化祭賞に、その他5公演が奨励賞に選ばれました。審査は、実際に公演を観た著名な芸術家や文化人、ジャーナリストが務めました。

K★バレエスタジオ代表の矢上久留美さんは、「妹の恵子が他界した悲しみの中、万感の思いで作り上げたメモリアルコンサート。スタジオ生やスタッフだけでなく、恵子を愛して頂いた全ての皆様によって無事に幕を降ろすことができました。いまだ悲しみが癒えずにいる私たちにとって、この受賞は何にも勝る激励となりました」と喜びを語りました。

矢上久留美さん

関西・大阪21世紀協会は、大阪文化祭賞を芸術・文化分野の人材発掘や育成、交流事業の一環として重視し、そのアピールに努めています。また、受賞者の励みとなるよう、副賞賞金（大阪文化祭賞20万円、奨励賞5万円）を提供しています。

各部門の受賞者　（　）内部は受賞公演

第1部門　▶伝統芸能・邦舞・邦楽◀

仮名手本忠臣蔵 九段目 山科閑居の段 出演者ご一同
（11月文楽公演）／**大阪文化祭賞**

山村若・山村侃
（新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会「竹生島」）／**奨励賞**

尺八古典本曲断片 ご一同
（尺八古典本曲断片 其の玖 三谷・菅垣 弐）／**奨励賞**

第2部門　▶現代演劇・大衆芸能◀

南河内万歳一座
（～21世紀様行～唇に聴いてみる）／**大阪文化祭賞**

五代目 旭堂小南陵
（連続講談千鳥亭における「妲姫のお百」）／**奨励賞**

第3部門　▶洋舞・洋楽◀

K★バレエスタジオ
（33回メモリアルコンサート）／**大阪文化祭賞**

古瀬まきを
（古瀬まきを ソプラノリサイタル ～La voix humaine～）／**奨励賞**

アンサンブル九条山
（アンサンブル九条山コンサート vol.7「セレクションズ」）／**奨励賞**

（敬称略）

＊今年度は新型コロナウイルスの感染防止のため、恒例の贈呈式は非開催となりました。

令和元年（2019）度　**関西元気文化圏賞**　（2020年1月27日・リーガロイヤルホテル大阪）

大賞「百舌鳥・古市古墳群世界遺産保存活用会議」

阪神タイガース・近本光司選手にニューパワー賞

文化・芸術・スポーツなどの分野で活躍し、関西から日本を元気に明るくした人や団体へ、感謝と一層の活躍を期待して贈られる「関西元気文化圏賞（関西元気文化圏推進協議会／関西・大阪21世紀協会も構成員）」。その贈呈式が文化庁芸術祭賞贈呈式と合同で行われ、「百舌鳥・古市古墳群世界遺産保存活用会議」に大賞が贈られました。

同会議は、大阪府・堺市・羽曳野市・藤井寺市の知事と市長をトップとして2011年5月に設立。百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録を目指し8年におよぶ取り組みの結果、2019年7月に登録が決定しました。大阪府内では初めての世界文化遺産登録で、これを契機に日本の歴史文化を伝える古墳群の価値を内外に示し、関西の知名度が一層高まると期待されています。

受賞者と主催者

また、将来性が期待できる人や団体に贈られるニューパワー賞は、阪神タイガースの近本光司選手ほか2名に贈られました。近本選手は、入団した2019年シーズンにおいて、セ・リーグ新人最多の159安打をマーク。さらに36盗塁を記録し、新人として2001年の赤星憲広選手以来、史上2人目の盗塁王を獲得しました。その打撃力と俊足で今後の活躍も大いに期待されています。各賞の受賞者は次の通り。

近本光司選手（祝賀会にて）

大賞：百舌鳥・古市古墳群世界遺産保存活用会議、**特別賞**：平田オリザ（劇作家）、**ニューパワー賞**：近本光司（プロ野球選手）、仲邑菫（棋士）、紀平梨花（フィギュアスケート選手）（敬称略）

緊急アピール

新型コロナウイルス感染症拡大の影響下 文化活動の灯を絶やさない迅速な施策を

一般社団法人 関西経済同友会　公益財団法人 関西・大阪21世紀協会

関西経済同友会と関西・大阪21世紀協会は、今年4月16日、政府および文化庁に対し、コロナ禍において文化芸術関係者への一層の支援強化を求める提言・アピールを行いました。"令和"に込められた「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」意味を、今こそ国民のみんなが想起し、文化芸術の灯が消えないよう力を尽くしていかなければならないと考えます。

提言・アピールは、当協会ホームページに掲載しています。
https://www.osaka21.or.jp

イベント報告

関西・大阪21世紀協会は、**「助成と顕彰」、「関西・大阪ブランドの発展と発信」、「伝統の進化と創造」**の3つを事業の柱としています。その中から、2020年1～7月に実施された事業のいくつかをご報告いたします。

第2回「なにわの企業が集めた絵画の物語」展

2020年1月24日～2月15日／大阪府立江之子島文化芸術創造センター
主催：関西経済同友会 企業所有美術品展実行委員会
協力：京都造形芸術大学　運営協力：関西・大阪21世紀協会

マネやロートレック、藤田嗣治など、関西の企業が所有する普段非公開の絵画43点を一般に公開するとともに、次世代を担う小学生を対象に、作品との対話を通して独創性や思考力を養う対話型鑑賞プログラムを開催。メディアにも数多く取り上げられ、会場は多くの来場者で賑わいました。

対話型鑑賞プログラム

深く学べる"21ワンモアカフェ"

2020年1月27日、2月17日／関西・大阪21世紀協会会議室
講師：岩佐倫太郎氏　主催：関西・大阪21世紀協会

大阪中之島美術館の開館を控え、広く美術への関心を促すことを目的に開催。西洋印象派は日本の浮世絵の影響で生まれゴッホにつながったことや、浮世絵の「多視点」の手法がルネサンス以来の遠近法を破壊し、近代絵画を成立させたことなどが紹介されました。

講義風景

堂島薬師堂節分お水汲み祭り

2020年2月3日／堂島・北新地一帯
主催：堂島薬師堂節分お水汲み祭り実行委員会

地元で古くから続く「節分祭り」と2004年に復活した「お水汲み」を一つにした祭り。薬師寺管主等による節分法要や参拝者の無病息災・商売繁盛を祈願する「お水汲み」が行われ、隣接する堂島アバンザ会場では、薬師寺僧侶による声明、北新地クイーンや飲食店員等による「お化け（仮装）」などが披露されました。当協会の堀井良殷理事長（当時）が共同実行委員長を務めました。

堂島薬師堂でのお水汲み

「令和OSAKA天の川伝説」疫病退散祈願祭

2020年7月7日／八軒家浜・川の駅はちけんや前
主催：おしてるなにわ ～OSAKA天の川伝説～
協力：関西・大阪21世紀協会

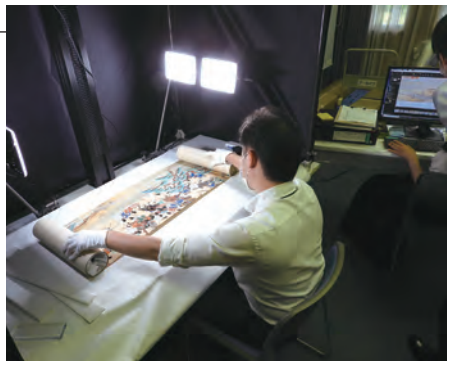
毎夏恒例の「令和OSAKA天の川伝説」が新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止された代わりに、これまで生國魂神社と大阪天満宮が合同で行なってきた同イベントの安全祈願祭を「疫病退散祈願祭」として実施。コロナ禍の終息と来夏のイベント開催を祈願しました。

疫病退散祈願祭

「八十島祭絵詞」デジタル・アーカイブ制作

2020年6～7月／大阪城天守閣ほか
事業主体：関西・大阪21世紀協会　日本博（文化庁補助金交付事業）
協力：凸版印刷株式会社

平安時代前期（850年）から鎌倉時代前期（1224年）まで、新天皇の即位儀礼の一つとして斎行されていた記録が残る「八十島祭」。平安京の清涼殿（京都）から難波津（大阪）に遣わされた女官が、大海原の霊力を御衣（おんぞ）（天皇の着衣）に付着させるなどして、国の繁栄と安寧を祈ったとされる祭祀です。昭和天皇の大嘗祭の翌年（昭和4年）に制作された「八十島祭絵詞」は、祭祀にかかわる一部始終が描かれた全3巻・54mにもおよぶ長大な絵巻物。長らく豊國神社に保管されていましたが、このたび、それをすべてデジタル画像として収録しました。今秋開催の「改元記念シンポジウム」で公開される予定で、全巻通して見られるのは約90年ぶりとなります。


「八十島祭絵詞」収録風景（7月7日・大阪城天守閣にて）

日本万国博覧会記念基金助成事業

2021年度の助成事業を募集します

申請書受付：2020年10月1日（木）～10月31日（土） ※当日消印有効

助成対象事業

1970年万博の理念を継承し、「日本万国博開催の意図」の趣旨に適った国際相互理解の促進に資する活動（① 国際文化交流、国際親善に寄与する活動、② 教育、学術に関する国際的な活動）を対象とします。

助成金額の申請

助成対象事業費の合計の3/4を上限として、10万円単位で申請してください。

- **複数年度助成事業**
  複数年度（最長３年間）で総額2,000万円（上限）
  １年間1,000万円を上限として、数件程度採択を予定しています。
  （該当なしの場合もあります）
- **単年度助成事業**
  200万円を上限として数十件程度採択します。

助成予定総額（複数年度および単年度助成事業の総額）…8,000万円

募集要項および申請書
当協会ホームページからダウンロードできます。
https://www.osaka21.or.jp/jecfund/information/

お問合せ・申請書送付先
関西・大阪21世紀協会 万博記念基金事業部
☎06-7507-2003　E-mail：jec-fund@osaka21.or.jp

楽しむ 学ぶ 語り合う

インフォメーション

令和２年度日本博イノベーション型プロジェクト
助成：文化庁／独立行政法人日本芸術文化振興会

改元記念シンポジウム

古代首都なにわと八十島（やそしま）祭 ～古きを知り・大阪の明日を想う～

主催：関西・大阪21世紀協会

天皇陛下御即位の翌年、古代大阪では御即位を寿ぐ宮廷祭祀として「八十島祭」が行われていました。万物に命が宿ると信じ、畏敬の念を抱いていた日本人は、難波（なにわ）八十島を日本国土に見立て、島々の御霊を新天皇の身体に付着させ、全国土の国魂を得て、国土の繁栄、安寧を祈ったといわれています。これは日本人の自然観を象徴するものです。

平成から令和への御代替わりを機に、その伝統を掘り起こし、輝ける古代大阪の歴史を再考するシンポジウムを開催します。難波のアイデンティティーを見つめ直し、2025年大阪・関西万博の開催に向けて大阪活性化に弾みをつけます。

2020年11月30日（月） 13：00～17：00 予定

松下IMPホール
（大阪メトロ長堀鶴見緑地線「大阪ビジネスパーク駅」４番出口より徒歩約１分）

お問合せ　産経新聞開発
☎06-6633-6834　FAX06-6633-2709　E-mail yaso@esankei.com

日本博…文化庁が推進する2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、総合テーマ「日本と自然」のもと「日本の美」を体現する美術展や舞台芸術公演、文化芸術祭などを全国で展開するプロジェクト。

※本誌133号において、開催日を3月27日とお伝えしましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため上記日程に延期されました。
※開催日、プログラム、出演者は、今後の感染状況などによって変更される場合があります。
※詳細については、関西・大阪21世紀協会ホームページにて告知の予定です。
https://www.osaka21.or.jp

第1部

基調講演
岡田荘司氏（國學院大學名誉教授）
ロバート キャンベル氏（国文学研究資料館長）

パネルディスカッション
岡田荘司氏、高島幸次氏（大阪大学招聘教授）、玉岡かおる氏（作家、大阪芸術大学教授）、ロバート キャンベル氏　（50音順）

第2部

令和奉祝芸能の披露
和太鼓「八十島太鼓」、巫女神楽「生國魂の舞」

先端技術を活用した歴史や文化の紹介
絵巻「八十島祭絵詞」（4K動画）
能「生國魂」（AR＜拡張現実＞）

豊國神社所蔵 絵巻「八十島祭絵詞」（4K動画の一部/P22に記事）

関西・大阪21世紀協会賛助会員 入会のお願い

関西・大阪の活性化のため、皆様のご支援をお願いします。

会　費（何口からでも結構です）
■法人会員１口につき年会費10万円
■個人会員１口につき年会費1万円

特　典
1.協会が発行する刊行物の配布
2.協会が主催する各種セミナーなどへの案内
3.賛助会員の参考となる情報・資料の提供など

お問合せ（公財）関西・大阪21世紀協会　総務部

公益財団法人
関西・大阪21世紀協会
ホームページ https://www.osaka21.or.jp

発　行　日／令和2年（2020）9月14日
編集・発行／公益財団法人 関西・大阪21世紀協会
〒530-6691 大阪市北区中之島6丁目2番27号 中之島センタービル29階　TEL.（06）7507-2001 FAX.（06）7507-5945
発　行　人／﨑元利樹　編集協力／株式会社インサイト　印刷／東洋紙業株式会社